

血管解剖の学び方・そのコツ

旭中央病院 脳神経外科

キッティポン スィーワッタナクン

「好きこそ物の上手なれ」, “Who likes not his business, his business likes not him.”

解剖を上手に学ぶにはまずその解剖を好きにならなければならない。そのためにはまず解剖の重要性を理解する必要がある。今回の発表の内容は解剖をこれから勉強する人のためにその重要性和そのコツを私見として伝える目的である。

解剖の重要性

以前にある病院のベテラン外科医の講演を聴く機会があり、その際に「内視鏡の手術は皆が見ている映像が同じだから、同じ情報しか得られない」という内容を聞いたことがある。しかし、これは本当でしょうか？ 血管撮影などでもその個人の観察力、解剖の知識などで捉えられる情報が異なる。ちゃんと注意してみているのか、解剖を理解できているのかで、内視鏡も血管内治療も治療の質が異なってくるとそのときに思った。解剖の知識は安全な血管内治療には絶対必要である。

勉強のコツ

解剖に興味を持つために：

— 教科書を読んだりして勉強するのもよい方法ではあるが、解剖や発生学は取っ付きにくいと思われるがちである。実際の症例を通して解剖の重要性を最初に実感するのがひとつの近道。身近な血管、見慣れた血管から少しずつ勉強を重ねていくことが重要。その部位の解剖の基本を覚えたあとに、それに関連した解剖を文献などで理解を深めること。そして、実際の症例の画像を確認する習慣を身につけること。破格に関しては種類にもよるが、動脈瘤症例10例に脳血管撮影を行えば、ひとつか2つの破格またはその他の血管解剖の参考になる所見は見つかるはずである。

— 少しでも解剖の知識を臨床に応用することを心がけること。解剖を知っているため、治療で得ることが増え、損することが減ることを実感する機会を作る。(供覧症例：PICAの塞栓症例)

— 治療用のデバイスなどが変化して行っても、解剖の知識はいつまで経っても古くなることはない。時間と共に知識が積み重なっていく一方である。これが解剖の知識の最も頼もしいところである。

効率よく、楽しく解剖を学ぶために

— 混乱しやすい事項を整理する。解剖用語には同じ意味を示す名前があると同時に血管の時期によって名前が変わるものもあり、注意しないと混乱しやすい。(提示例：テキストによる名前の違い、hyoid artery, inferolateral trunkなどの発生段階による名前の違いの例を示す)

— 血管の大小、見た目の曲がりやを気にして捉えると、一種の錯覚を起こすことがある。動脈の灌流域、走行にはルールがあり、奇妙な走行しているようでも、よく観察すると基本に当てはめることができる。(提示例：accessory MCA)

— 解剖の相似性を理解する。これにより、解剖の知識に応用が効いてくる。(提示例：radiculomedullary arteryと頭蓋内椎骨動脈の相似性を示す)

— 発生学を学ぶポイントとしては、一度勉強した内容を時間の逆順で思い出してみる。(提示例：hyostapedial system)

最後に、解剖を学ぶことは外国語を学ぶことと同じ作業である。反復練習、人と話をして覚える、(workshopなどでは)間違えることを恐れない、ゆっくりと染みこんで、一旦しっかり覚えたものは簡単には消えない、という認識が必要。初心者ときは自分なりの解剖の会話をすることも大切。外国語の勉強と同様、丸暗記は基本的に役立たない。理解しながら、反復練習して、徐々に知識を深めていく姿勢が必要と

考える。

以下はPierre LasjauniasのAnatomyに関する言葉である。解剖の重要性、勉強のヒントが含まれている。

- Anatomy is a language established between the specialist and the morphology of the patient
- It needs dedicated training (like a foreign language)
- As any language, it needs to be practiced
- It carries different level of mastership
- It allows for many expressions dealing with the same object
- The best way of being safe.